

研究に関する情報公開

<人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

<研究課題名> 小児心身症における新型コロナウイルス感染症の影響に関する探索的観察研究
<研究機関・研究責任者名> 日本大学医学部附属板橋病院 小児科 (研究責任者) 石井 和嘉子
<研究期間> 承認日 ~ 令和6 (西暦 2024 年) 年 3 月 31 日
<p><研究の目的と意義> 小児の心身症の代表的疾患に、起立性調節障害 (orthostatic dysregulation: OD) や摂食障害があります。OD は、起立という動作に伴って循環動態の変化に代償できずに、立ち眩み、倦怠感、頭痛、腹痛、失神などが表れる自律神経の機能不全です。主に思春期に発症し、重症な患者さんでは学校生活に対する影響も大きいといわれています。発症の契機や症状増悪因子として、何らかの心理社会的ストレスの関与があるといわれ、引きこもりや長期臥床などの活動不足による身体調節機能異常も誘因となるといわれています。摂食障害は、神経性食欲不振症 (anorexia nervosa: AN) と神経性大食症を代表とする食行動異常を中心に様々な心身症状や行動異常を呈する疾患です。背景には、素因、人間関係、社会的環境の影響などが考えられています。10 代後半~20 代の若い女性に多いですが、近年前思春期発症例も増加傾向にあります。</p> <p>2020 年 1 月にわが国でも新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が確認され、感染の不安や行動制限によるストレスがメンタルヘルスに与える影響も大きいといわれています。COVID-19 流行による外出自粛や休校などによる運動不足は OD の発症リスクを高めるといわれています。また AN の国内での発症は COVID-19 パンデミック宣言後に 2.2 倍に増加したと報告されています。これらの背景には、蔓延防止のための一斉休校、外出自粛による活動量の低下や生活習慣の増悪、感染への過剰な不安や孤立ストレス、対人交流の減少など、子どもを取り巻く生活環境の変化が影響している可能性が考えられます。</p> <p>本研究では、COVID-19 流行下における小児心身症児の特徴を明らかにするために、診療録から対象期間中に当院を初診し、OD・摂食障害の病名のある患者さんを抽出し、COVID-19 流行前後での受診状況や臨床情報を比較することを目的としました。</p>
<利用する試料・情報の項目> 診療録より、年齢、性別、身長、体重、肥満度、サブタイプ分類および病型分類、初診時の症状の種類、発達障害の併存の有無、推定発症時期から初診までの期間、発症の背景と考えられる心理的要因の有無、不登校の有無、レントゲンにおける小心臓の有無の比較、血液検査結果、治療方法の種類、転帰、また OD ではレントゲンによる心胸郭比、女性の摂食障害では月経の有無等の情報を使用します。
<対象となる方> 2015 年 1 月 1 日~2022 年 8 月 31 日の期間に日本大学医学部附属板橋病院小児科を初診し、診療録上、OD もしくは摂食障害の病名登録のある患者さんを対象とします。なお、COVID-19 流行前を 2019 年 12 月までに、COVID-19 流行後を 2020 年 1 月以降に病名登録されたものと定義します。
<研究の方法> 上記診療録情報を抽出し、COVID-19 流行前後で統計学的に比較検討します。
<お問い合わせ窓口> 日本大学医学部附属板橋病院 (東京都板橋区大谷口上町 30-1)
小児科 石井 和嘉子 電話: 03-3972-8111 内線: (医局) 2442 (PHS) 8202

